

【目的】

これまで実施してきた条例認知度調査において、特に20代以下の認知度が低いことから、大学生との共生のまちづくりについて考えるワークショップを通じて、若年層への周知啓発と意識醸成を図る。

【実施概要】

実施日	令和6年1月18日(木)	令和6年1月19日(金)
大学・学科	新潟薬科大学 応用生命学科	新潟青陵大学 共生社会学科 ほか
参加人数	8名	46名
主な内容	条例に示す身近なテーマを用意し、 広く共生について考える (グループワーク)	条例に示す身近なテーマを用意し、 広く共生について考える (グループワーク)

【アンケート結果】

1. ワークショップを通じて、講義の内容や共生への認識を高めることができたか？



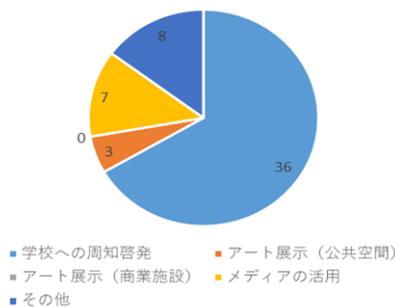
【新潟薬科大学】

- ・知らない事例を知ることができたり、具体的な状況を考えたり、聞けたりしたから。
- ・障がいを持つ人の悩み・苦しみを再認識できたから。
- ・具体的な話し合いができたから。

【新潟青陵大学】

- ・自分以外の意見やお話を聞いて、新しい知見を取り入れることができた。
- ・障がいを持った人がどんな課題に直面しているか考え、共生への工夫を知ることができた。
- ・学んでいる知識に関して再認識することができた。

2. 若年層の条例認知度を向上に、どのような取り組みが必要だと思いますか？（複数回答）



【学校での周知啓発】

- ・小さい時からの理解が必要だと感じたから。
- ・学校であれば個人差なく皆が一様に学べるから。

【アート展示】

- ・誰もが目を引かれるし、個々の個性があらわれる。

【メディアの活用】

- ・メディアで何度も発信することで目に留まる。
- ・障がい者を知る方法がSNSの活用がほとんどだから。

【その他】

- ・全ての項目に取り組むことが認知度を上げる。
- ・活発な活動も大切ではあるが、逆に差を生み出すことも考えられる。

3. 意見・感想

【新潟薬科大学】

- ・障がい者には個人個人に合わせて対応や配慮を行っていくことが大切だと感じた。
- ・一人ひとりの意識を高くもつこと大切だと思ったので、今日みた事例のような場面に遭遇したときは、今日の活動を生かしたい。

【新潟青陵大学】

- ・課題を考えだすときりが無いが、向き合っていかなければいけないと思うので、その機会をもてて良かったと思った。
- ・個人が意識して、できることは積極的にいき、住みやすい社会づくりに貢献していきたい。
- ・障がい者に対する対応を見直すことができたと思う。